

基礎看護技術Ⅱ「罨法」

【学習目標】

- 1 湯たんぽ・氷枕の点検ができる。
- 2 湯たんぽ・氷枕内に適切な量の湯（氷と水）を入れることができる。
- 3 湯たんぽ・氷枕内の空気を抜き、栓（留め金）を確実に止めることができる。
- 4 目的に応じた部位に湯たんぽ・氷枕を当てることができる。
- 5 罨法実施後の観察項目を述べるができる。

温罨法（湯たんぽ）

【必要物品】

湯たんぽ（ゴム製），湯たんぽカバー，ピッチャー，湯，水滴拭き取り用タオル，水温計


手順	留意点・根拠
<p>1 患者に温罨法の目的と方法を説明し患者の理解を得る</p>	
<p>2 貼用部位の皮膚の状態を観察する</p>	
<p>3 温罨法の準備をする</p>	
<p>1) 必要物品を準備，点検する。 2) ピッチャーに60℃程度の湯の準備をする。</p>	<p>湯たんぽの破損，栓の破損，カバーの破損がないか確認する。</p> <p>【湯の温度】 ゴム製：60℃程度 プラスチック製：70～80℃ 金属製：80℃程度</p>
	
<p>4 漏れがないか確認する</p>	
<p>1) 湯を少量入れて，栓をする。 2) 水滴を拭いて，逆さにして漏れがないことを確認する。</p>	
 	
<p>5 湯たんぽに2/3程度の湯を入れる</p>	<p>プラスチック製と金属製では注ぎ口の口元まで入れる。</p>
<p>6 口を上向きにし反対側から口に向かって空気を追い出す</p>	<p>空気があると，熱伝導率が水に比べて低いため温かさが伝わりにくい。</p>
	



手順	留意点・根拠
<p>7 栓をする</p> <p>8 漏れがないか確認する</p> <p>9 カバーをかける</p>  <p>10 貼用する</p> <p>1) 身体から10cm程度離して置く。</p>  <p>2) 快・不快を確認する</p> <p>3) 貼用中の留意点について説明する。</p> <p>11 皮膚の状態、温度などを適宜確認する</p> <p><b>片づけの仕方</b></p> <p>1) ゴム製品は湿気、熱、紫外線で劣化するので、十分に乾燥させ、直射日光を避けて保管する。</p> <p>2) 湯たんぽの表面にペーパーパウダーなどをふる。</p> <p>3) 湯たんぽの内部に新聞紙などを差し込んで保管する。</p>	<p>周囲の水滴を拭きとる。</p> <p>保温効果を高める。カバーがない場合はバスタオルなどでくるむ。</p> <p>低温熱傷に注意する。 特に意識レベルの低下している人、麻痺などの知覚障害のある人、高齢者、乳幼児は感覚機能が低いので注意する。 適切な部位に貼用されているか確認する。 温度は適切か頻回に確認する。</p>

## 冷電法(氷枕, アイスパック)

### 【必要物品】

氷枕, 氷枕カバー, 漏斗, スコップ, 留め金2個, アイスパック, ピッチャー, 氷, 水, ベイスン  
水滴拭き取り用タオル, アイスピック(必要時)

手順	留意点・根拠
<p>1 患者に冷電法の目的と方法を説明し患者の了解を得る</p>	
<p>2 貼用部位の皮膚の状態を観察する</p>	
<p>3 冷電法の準備, 点検をする</p>	
<p>1) 必要物品を準備, 点検する.</p>	
<p>2) ピッチャーに水の準備をする.</p>	<p>氷枕の破損, 留め金の破損, カバーの破損がないか確認する.</p>
	
<p>4 水漏れがないか確認する</p>	
<p>1) 水を少量入れて, 留め金をする.</p>	
<p>2) 水滴を拭き, 逆さにして水漏れがないことを確認する.</p>	
 	
<p>5 氷の角をとる</p>	
<p>1) ベイスンに氷と水を入れる.</p>	<p>クラッシュ状の氷はそのまま使用する.</p>
<p>2) ベイスンを回しながら, 氷の角をとる.</p>	<p>角がとがっていると不快感を与えたり, 氷枕を傷める可能性がある.</p>
 	
<p>6 氷を入れる</p>	
<p>氷枕: 氷を1/3~1/2程度入れる.</p>	
<p>アイスパック: 氷を2/3程度入れる.</p>	<p>患者の頭部が安定する量にする.</p>
	

手順	留意点・根拠
<p><b>7 水を入れる</b>                      氷枕：氷枕の2/3程度入れる。                      アイスバッグ：氷が浸る程度入れる。</p>	<p>氷の感触を和らげる。</p>
<p><b>8 空気を抜く</b>                      氷枕：口を上向きにし、反対側から口に向かって空気を追い出す。                      アイスバッグ：下から徐々に空気を追い出す。</p>	<p>空気があると、熱伝導率が水に比べて低いため加冷効果が低い。                      空気があると頭部が不安定になる。</p>
	
<p><b>9 口を留める</b>                      氷枕：留め金を2つ使用し交互に留める。                      アイスバッグ：栓を確実にする。</p>	<p>水が漏れないようにする。</p>
	
<p><b>10 水漏れがないか確認する</b></p>	
<p><b>11 カバーをかける</b>                      1)表面などについている水滴をふき取る。                      2)口を下にして水漏れがないか確認する。                      3)カバーをかける。</p>	<p>カバーが湿潤していると不快感を与える。                      水の熱伝導率が高いため寒冷刺激が増強する。</p>
	
<p><b>12 貼用する</b>                      1)留め金の接続部を上にし、患者が顔を向ける方向と反対になるように置く。</p>	<p>留め金により、顔面が傷つかないように。動きが妨げられないようにする。                      氷枕は肩を冷やさないようにする。</p>
	

手順	留意点・根拠
<p>2) 快・不快を確認する 3) 貼用中の注意点について説明する。</p> <p><b>13 皮膚の状態，温度などを適宜確認する</b></p> <p><b>片づけの仕方</b></p> <p>1) ゴム製品は湿気，熱，紫外線で劣化するので，十分に乾燥させ，直射日光を避けて保管する。 2) 氷枕の表面にペーパーパウダー等をふる。 3) 氷枕の内部に新聞紙などを差し込んで保管する。</p> <p><b>消毒について</b></p> <p>ゴム製品は消毒が困難であり、感染源となる可能性もあるので、取り扱いの際には2次感染に十分注意する。 最近では、メンテナンスが簡便なCMC製品（アイスノンなど）が使用されることが多い。</p>	<p>頭部の安定性や高さが不快でないか確認する。</p> <p>皮膚の状態や氷の溶け具合を確認する。 寝衣や寝具が濡れたり湿っていないか確認する。</p> <p>長時間の貼用は、血液循環や感覚神経の働きが低下するので、皮膚の色の変化，凍傷，感覚麻痺の出現に注意して経時的に観察する。</p> <p>冷罨法の目的や患者の状態を踏まえながら、適宜，貼用時間，貼用部位の調整をする。</p>